自 己 評 価 票

○ 自己評価は全部で100項目あります。
○ これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
○ 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
○ 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

○ 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
Ⅰ．理念に基づく運営	22
1．理念の共有	3
2．地域との支えあい	3
3．理念を実践するための制度の理解と活用	5
4．理念を実践するための体制	7
5．人材の育成と支援	4
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1．一人ひとりの把握	3
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3．多機能性を活かした柔軟な支援	1
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1．その人らしい暮らしの支援	30
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
Ⅴ．サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

［取り組みの事実］
ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

［取り組んでいきたい項目］
今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

［取り組んでいきたい内容］
「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

［特に力を入れている点・アピールしたい点］（アウトカム項目の後にある欄です）
日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家　族 ＝家族に限定しています。
運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（№1から№87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（№88から№100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	東開メディカル　有限会社
（ユニット名）	灯夢館
所在地 （県・市町村名）	鹿児島県鹿児島市東開町3番地21
記入者名 （管理者）	伊藤　喜代美
記入日	平成　21年9月1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

（ ▒ 部分は外部評価との共通評価項目です ）

取り組んでいきたい項目

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者が安心して生活出来る家作りを目指して全職員が話し合い、地域と密着した理念を作り上げている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念をケアの目標・道標として共有しており、自分のケアの振り返りを行い、理念に添ったケアが出きるように日々取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	折に触れ地域に、暮らし続ける事の重要性を家族と話したり、玄関に理念を掲示して地域の中で暮らし続ける事の大事さを伝えている。また、町内会の活動や地域の行事、学校の行事等に参加する中で、地域の方々に理解して頂く様にしている。		
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホームの周りに庭や家庭菜園を作ったり、表札を掲げ、誰でも入りやすい家庭的な雰囲気作りをしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域町内会に入会し、催事に積極的に参加している。また、隣接する病院に通院する地域の方に、日常的にホームに立ち寄ってもらいながら、魚や野菜などを頂いたりする関係も出来ている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	隣接の病院(東開内科ｸﾘﾆｯｸ)から紹介を受けて、地域の方の困りごとや認知症の相談を受ける機会が多い。施設を見学してもらいながら、話を聞き、出きる範囲での支援を行っている。		
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者をはじめ職員は、前回評価の改善計画を作成し共有する事で自己評価及び外部評価の意義を理解し、具体的な改善に全員で取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、長寿会会長、家族等が出席しており、それぞれの立場からの意見をもらい、運営に役立ている。また、話し合われた意見を集約し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とは、事業所の取り組みの報告、介護保険諸手続き、福祉手続き等相談しながら関係作りを積極的に行い、協力関係を構築している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度を想家館の利用者が活用されている事もあり、随時学ぶ機会を持っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者は高齢者虐待防止関連法についての研修に参加して、スタッフと共に話し合い、虐待のないケアのあり方を実践している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
４．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者は、契約時は重要事項説明書の読みあわせを行い、充分な説明をして理解してもらった上で結んでいる。また、解約時は退去にいたる状態変化を対応可能な範囲で説明を行い、退去後の支援の継続も出来る範囲で行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員や、ボランティアの導入を行なう事で利用者の意見や、不満、苦情を外部者に話せる機会を作っている。また、日々のコミュニケーションをとる中で意見や不満、苦情を把握しそれらを施設運営に反映させている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所は、利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の移動等について、家族の面会や電話または毎月発行のホーム便り等にて個々にあわせた報告をしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から職員は意見を言いやすい雰囲気作りに努めており、家族との会話の中から要望をくみ取るようにしている。出された苦情・要望は、内容の詳細を報告書に記載して職員で改善に向けて話し合いい、結果をホーム便りに掲載し運営に反映させている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者や管理者は、職員と日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、意見を聞いたり提案を聞きながら、施設運営に反映させている。1ヶ月に1回のスタッフ会議の中で、活発なデスカッションが行われている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ローティションの中で、必要な時間帯(遅出、早出)に柔軟な対応が出来るように職員と話し合い、勤務の調整に努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員と入居者・家族との馴染みの関係を重要視したケアを心がけている。個別担当者を決めているが全職員が係わりを持つ体制になっている。止むをえない異動の場合には介護力のバランスや職員、入居者との相性に配慮しながらホームの理念やケアの考え方をしっかりと伝えて不安がないようにしている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
tutomete				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修係を設けて年間研修計画に沿って法人内外の研修を行っている。また、ジョブコーチの導入を行い、新人が早期に職場に適応できるように取り組んでいる。来年度に向けて、キャリアパスの整備中である。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、県や地区(谷山)のグループホーム協議会に加入し積極的に管理者、職員を参加させている。また、関係機関との交流を積極的に図っている。研修受け入れや見学受け入れ、情報交換等を行っている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は、時折グループホームの業務に入る事で状況を把握している。また、常にスタッフの話を聞く事でストレスを知り、スタッフ個々に応じたストレス解消策を講じている。(他事業者との交流の機会を作ったり、職員の親睦会をもっている。)		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、日頃から頻繁にグループホームに来て、スタッフの勤務状況をみており、スタッフは意欲を持って仕事を行う事が出来ている。また、資格取得時の評価を行っている事で、資格取得への意欲は高い。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人及び家族と事前面談を充分に行い、利用者の生活状態を把握する事で、本人の思いや不安を受け止め、安心して利用開始が出来るようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談において、本人の生活状況をゆっくりと聞き取り、今困っている事を把握し事業所において、どのようなサービスが出来るのか事前に話し合いをして、次の段階の相談につなげている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、家族の実情や要望を元に、その時点で何が必要かを見極め事業所として、出来る限りの対応に努めている。事業所内だけで抱え込むのではなく、地域のケアマネジャーと連携しながら必要に応じて他のサービス機関につなげている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の折には面談し利用者の生活状態、思いや不安を充分に聞いている。また、来訪してもらい、職員、入居者と過ごしてもらうなど安心して利用できるように取り組んでいある。		
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、普段から利用者に教えてもらう場面が多い。一人ひとりの生活暦や力を活かした役割(ラッキョウ漬け、菜園での作業、花いけ、台所仕事)をしてもらう中で喜怒哀楽を共にし、暮らしの中で支えあう関係を作っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	季節の野菜を、職員と利用者が一緒に家庭菜園の中で作っている。料理の下ごしらえ(筍の皮むき、つわの皮むき等)をする中で、スタッフは教えてもらいながら、一緒に活動したり、楽しんだりする機会を多く設けている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員は、本人と家族の関係の理解に努め、本人の日頃の状態を機会あるごとに、家族に報告している。また、家族の来訪時も潤滑油になるよう努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の馴染みの方の訪問時には、自宅に遊びに来られたような温かいもてなしをしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事やお茶の時の、座席の配置を工夫したり、さりげなく利用者同士で会話が弾んだり出来るような声かけ等の配慮をし、相互に助け合う関係作りに努めている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の施設、病院に移られた方にはその後も面会に行き(ターミナルの方には看取りケアを病院スタッフと一緒に行った)継続した関わりをもっている。	○	グループホームで看取る事は出来なかったが、入院先の好意で、亡くなった時に連絡をもらい、スタッフが駆けつけ最後のお世話をさせてもらった。また、葬儀に参列し家族と共に故人を偲びながらおくる事が出来た。
1．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの話を傾聴し、日々の関わり中で思いや意向の把握に努め、困難な場合は、家族との連絡時や家族会の中で話しあい、本人本意に検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	折に触れ、本人や家族等から生活暦や馴染みの暮らし方等を聞き把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを、理解する事により本人の出来る力を、引き出していく努力をしている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人の身体状況や生活暦、希望を把握し、家族との連携を保ちながらケース会議を行い職員の気付きや意見を出してもらい、それらを反映した本人本意の介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族の意見・要望を取り入れ、状態の変化が生じた場合、その都度見直しを行っている。毎月のユニット会議で介護計画の見直しの必要性を検討し、評価は3ヶ月に1度行っている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気付いた事、エピソードを記録に残し職員全員が情報を共有出来るように、勤務前に記録を読むようにしている。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接する東開内科との連携において、医療面の24時間の健康管理と医療活用の強化を行っている。また、本人、家族の状況に応じて、通院介助や外泊支援、個別買い物支援を行っている。また、家族宿泊時は、食事を提供している。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して地域での暮らしが続けられるように、警察・消防・ボランティアとの連携・協力を頂いている。また、消防署には、日頃から、防災についての相談を行い、年2回の防災訓練を消防署の指導の下で行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の生活や意向に合わせて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と連携をとり、ニーズがかなう様に支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの周辺情報や支援に関する情報交換を行い、協力関係を築いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医選択においては、利用者及び家族の希望を大事にしており、柔軟な定期的な受診、通院介助の対応がなされている。また、利用者及び家族の希望を大切にし、その上で協力医療機関の支援をもらっている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	家族や職員が気軽に相談できる認知症に詳しい医師との、関係が出来ており、診断情報や治療方針、認知症についての指示や助言をもらっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	グループホーム内に看護職員を配置し、隣接の病院の看護師とも連携が取れており、日常の健康管理や医療面での相談、助言、対応が出来ている。	○	東開内科と調剤薬局の協力の下、月2回の医療カンファレンスを行い医療支援を受けている
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者さんが安心して入院できるように、支援方法に関する情報を医療機関に提供したり、隣接の協力医療機関との連携において出来るだけ早期に退院できるように支援している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に対する指針を定めており、家族、医師、看護師を交えて話し合いを行っている。家族の同意書もあり、職員は重度化に対する勉強会を行い方針を共有している。	○	終末期においては、家族や本人・医師・看護師・スタッフを交えて何度も話し合いを繰り返し、本人が安心して過ごせるように支援している。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	日頃から家族と協力医療機関と連携を取りながら、事業所のできる事・出来ない事を見極めながら、重度や終末期の利用者が安心して納得した最後が迎えられるように取り組んでいる。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者さんが、グループホームから別な場所へ移り住む際、関係者間で充分な話し合いや情報交換を行い住み替えによるダメージを最小限に食い止めるように努めている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1．その人らしい暮らしの支援				
（1）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の意識向上を図るため尊厳に対しての係わり方について勉強会をしている。トレーニングの成果は言葉かけや接し方などのケアに活かされている。また、職員採用時に守秘義務の誓約書も交わされている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員は利用者一人一人の力に合わせて、希望や関心、嗜好を基に本人が選びやすい場面作りをしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしては基本となる1日の流れはあるものの利用者一人ひとりのペースや希望を取り入れ、その日の体調や気分に合わせた支援が出きるよう努力している。		
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望に応じての身だしなみや理美容の利用が出来るように努めている。例えば、希望時は訪問理美容を利用している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と相談しながらその日のメニューを決めたり、買い物に行ったり、一緒に調理・盛り付け・片付け等も行っている。また、食卓を一緒に囲んでサポートしながら食事をしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	希望に応じて、夕食時の晩酌を提供したり、おやつや飲み物、馴染みの嗜好物を日常生活に取り入れている。(誕生日には本人の好きなものを作って祝っている)		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	必要に応じて入居時や状況に応じて、排泄のチエック表を作り、一人一人の力や排泄のパターン、習慣をいかして気持ちよく排泄できるように支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調と希望に応じて入浴支援を行っている。入浴日は特に無く、個別に対応している。一人ひとりの時間をゆっくりととり入浴の楽しみを感じてもらえるように配慮している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の体調に合わせて休息や睡眠が取れるように支援している。また、なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整える事で夜間に安眠できるように努めている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は季節を感じる為の菜園作業・家事や趣味(塗り絵・計算ドリル・パズル)を楽しんだり、家事をする事でそれぞれの役割を見出し日常生活を楽しんでいる。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、その人の能力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。（買い物時、能力に応じて欲しい物は自分で支払って買い物している。）		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節を感じるため月に3．4回はドライブに出掛け、日常的に本人の気分や天候に応じて食時の買い出しや散歩など外出の機会を設けている。また、地域行事等への参加を支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一人一人の思いや願いをくみ取り、叶えられるように職員の勤務を調整したり、家族の協力をもらうなどして実現に向けて支援している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、居室にてゆっくり話せるように子機を利用している。また、自分で通信が出来ない方に代わって、職員が代行しているがその場合でも、プライバシーに配慮している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時には、お茶や菓子を出して、親元を訪れるような雰囲気作りを心がけ、いつでも気軽に訪問出来、居心地良く過ごせるような工夫をしている。		
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員は、身体拘束をしないケアへの取り組みについて努力し、月一回、スタッフ会議時に身体拘束委員会を開き、認識を高めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員は、鍵をかけることの弊害を十分理解しており、職員の見守りの方法を工夫し(職員の業務体制を組みかえる等)鍵をかけずに安全に生活出来るように配慮している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員が利用者を見守り易い位置におり、プライバシーに配慮しながら、さり気なく全員の状況を把握出来るように努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせて十分な検討をし、注意が必要な物品を職員が把握し、管理方法を決めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員の共有認識を図り、事故の未然防止に役立つよう、スタッフ会議時に月一回、安全対策委員会を開き、ヒヤリハットの記録・分析、事故の想定・検討を行っている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	隣接する東開内科クリニックから定期的に指導を受けて、応急手当や初期対応の訓練が出来るようにしている。夜勤時の緊急対応については、その都度隣接のクリニックより応援を受けている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定した避難訓練を含め、定期的な訓練を行っており、消防関係者や町内会や近隣のご家族の協力を得ている。災害時には必要とされる備蓄の管理もなされている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	ご家族とは常に、自由な暮らしの大切さと1人1人のリスク面について話し合い、抑圧感の無い安全な生活を心がけている。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、バイタルチェックを行って記録を残し、体調の変化や異常の発見時には速やかに医療連携を行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	隣接クリニックの看護師の指導の下、服薬の注意事項や服用方法について全職員が把握している。また、服薬ファイルを作成し、情報の共有を図っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は便秘の原因や及ぼす影響を理解しており、便秘対策において、散歩・家事活動等で体を動かしたり、繊維質の多い食材や乳製品を摂取するように食事の工夫をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声掛けを行い、力に応じて職員が見守ったり、介助を行っている。就寝前は義歯の洗浄を行っている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日1500～1600キロカロリーの食事提供と水分1200ccを目安にしており、隣接の病院の管理栄養士から指導を受けている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	隣接クリニックの指導の下、感染症の予防や対応の取り決めをしてあり、予防と早期発見・早期対応に努めている。例えば、利用者・職員共に、手洗い・嗽の徹底や、インフルエンザ予防接種を受けたり、ウェルパス消毒薬を使用している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫は定期的に点検・掃除し、食材の管理を行っている。また、買出しは新鮮な食材を求め、出来るだけ買いだめは行わないようにしている。布巾や俎板は毎晩、ハイター消毒し、まな板は使用前に熱湯消毒している。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （１）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口に手作りの看板を掲示したり、玄関や建物周囲に生垣を配して、事業所に入りやすい配慮をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物全体が純木造建築で、木肌のぬくもりを大事にしている。また、木の香りに包まれており、居心地良く、小さい頃に帰ったように感じる雰囲気つくりをしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭やベランダに椅子を置いたり、和室などにコタツをおくなどの工夫をしており、その中で一人になったり、気のあった仲間同士がくつろげるような雰囲気作りをしている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、位牌、たんすや椅子、リサイクルの工作物など使い慣れた物品が持ち込まれて今までの暮らしを想像できるような居室になっており、安心した生活が送れている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	職員は空気の入れ換えや温度調節を常に意識しており、こまめに換気を行ったり、外気との温度差があるときは、利用者の状態に合わせて冷暖房を調節している。		
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は、バリアフリーに配慮されているが、利用者のその時の状況に応じて浴室のマットや手すり、中庭へ降りる手すりやスロープの工夫を行い、自立した生活が送れるようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人の状態を把握し、混乱や失敗があった時は速やかに原因を追究し、環境面での工夫を行い不安なく生活出来るように配慮している		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭や玄関先にベンチを置き、利用者が涼んだり日向ぼっこが出来るように工夫している。また、畑を作り趣味を生かして楽しめるよう、支援している。		

Ｖ．サービスの成果に関する項目

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

隣接したクリニックとの医療連携で健康管理を行い、安心して過ごして頂いている。グループホーム立ち上げ当初より、スタッフ会議を月1回行っている。その中で勉強会を開いたり、隣接のクリニックの先生から、医療面の指導を受けたり各委員会(身体拘束、安全、感染)などを行ってスタッフ全員のケアの向上に努めている。また、自由な意見の交換を行い、事業所の運営改善の取り組みが皆で行える環境が出来ている。施設長・理事長は管理者と共に、利用者中心のケアの徹底に強い気持ちを持っており、施設長は実際のケアに入ったり、会議に出席し、事業所の運営に真剣に取り組んでいる。また、スタッフ一人一人の個性を大事にし、利用者の思いを汲み取り叶えられるように配慮している。現在、快適な木造りの家で四季を感じ心豊かに、笑って過ごせる楽しいグループホームになっている。